



JPN Class

Online school - 日本語で学ぼう

中学

国語
一年

十月
第②週



学習を始める前に

①必ず用意してください

・ノート

(学習しやすいように、漢字のノートと国語のノートを分けるなど工夫をすること。)

・筆記用具 (赤ペンも用意すること。)

②注意

・大事だと思うところはノートに書いてください。

・このビデオで使っているスライドを印刷したい人は、最後の**お知らせ**を見てください。

・「ビデオを止めてください。」と言われたら、ビデオを止めて、先生の指示に従ってください。

・必要があるときは、ビデオを止めたり、もう一度ビデオを見たりするなど、それぞれ工夫をください。

先週の宿題から

1. 漢字

今日の授業で書いた新出漢字の練習。
文章で書けるように、新出漢字以外の漢字も復習のため練習しましょう。

2. 音読 「大人になれなかった弟たちに・・・」を
読みましょう。

3. 重要語句など
重要語句や、戦争の話に使われる言葉の意味を確認
しておきましょう。

① 空襲 空から飛行機で敵を攻めること。

② 防空壕 空襲から身を守るため、地面を掘って作る待避所。

③ 配給 戦争中、不足した物資を政府が統制し、品物などを一定の割合で消費者に配る

④ 疎開 空襲などによる戦災から身を守るため、都市の住民が安全な地方へ引っ越すこと。

⑤ 栄養失調 栄養が足りなかったり、つり合いが取れなかったりして、体がひどく弱ること。

漢字テスト①

漢字の読み方を書きましよう。

- (1) 空襲がひどくなってきた。
- (2) 日本に爆弾を落としに来た。
- (3) 地下室の中で寝る。
- (4) 自分たちで掘った穴。
- (5) 畳を上げて穴を掘った。
- (6) ミルクが一缶届く。
- (7) お菓子は何もない時代。
- (8) 大切なミルクを盗み飲んだ。

漢字テスト①

漢字の読み方

答え合わせをしましょう。

- (1) 空襲がひどくなくなってきた。 くうしゅう
- (2) 日本に爆弾を落としに来た。ばくだん
- (3) 地下室の中で寝る。 ねる
- (4) 自分たちで掘った穴。 ほった
- (5) 畳を上げて穴を掘った。 たたみ
- (6) ミルクが一缶届く。 ひとかん
- (7) お菓子は何もない時代。 おかし
- (8) 大切なミルクを盗み飲んだ。ぬすみのんだ

漢字テスト②

―線の漢字を書きましよう。

- (1) くうしゆうがひどくなってきた。
- (2) 日本にばくだんを落としに来た。
- (3) 地下室の中でねる。
- (4) 自分たちでほった穴。
- (5) たたみを上げて穴を掘った。
- (6) ミルクがひとかん届く。
- (7) おかしは何もない時代。
- (8) 大切なミルクをぬすみ飲んだ。

漢字テスト②

―線の漢字を書きましょう。

答え合わせをしましょう。

- (1) くうしゆうがひどくなつてきた。空襲
- (2) 日本にばくだんを落としに来た。爆弾
- (3) 地下室の中でねる。寝る
- (4) 自分たちでほった穴。掘った
- (5) たたみを上げて穴を掘った。畳
- (6) ミルクがひとかん届く。一缶
- (7) おかしは何もない時代。お菓子
- (8) 大切なミルクをぬすみ飲んだ。盗み

大人になれなかった

米倉 齊加年
よねくら まさかね

弟たちに……

僕の弟の名前は、ヒロユキといいます。僕が小学校四年生の時に生まれました。そのころは小学校といわずに、国民学校といっていました。

僕の父は戦争に行っていました。太平洋戦争の真っ最中です。

空襲といって、アメリカのB29という飛行機が毎日のように日本に爆弾を落とすにきました。夜もおちおち寝ていられません。毎晩、防空壕ぼうくうごうという地下室の中で寝ました。

地下室といっても、自分たちで掘った穴ですから、小さな小さな部屋です。僕のうちでは、畳を上げて床の下に穴を掘りました。母と僕で掘ったのです。父は戦争に行って留守なので、家族は、僕と母と祖母と妹と弟の五人です。五人が座ったらそれでいっぱい穴です。

弟は生まれて間もないのですが、いつも泣かないで一人でおとなしく寝ていました。母は穴を掘りながら、ヒロユキがおとなしいから助かる、と言っていました。

*B29 そのころのアメリカの最新型長距離爆撃機ばくげいき

〈新出漢字〉

空襲しゆうこう

爆弾ばくだん

寝るね

掘るほ

畳たたみ



そのころは食べ物が多分になかったので、母は僕たちに食べさせて、自分はあまり食べませんでした。でも弟のヒロユキには、母のお乳が食べ物です。母は自分が食べないので、お乳がでなくなりました。ヒロユキは食べるものがありません。おもゆといっておかゆのもつと薄いのを食べさせたり、やぎのミルクを遠くまで買いに行って飲ませたりしました。

でも、ときどき配給がありました。ミルクが一缶、それがヒロユキの大切な食べ物でした……。

みんなにはとうていわからないでしょうが、そのころ、甘いものはぜんぜんなかったのです。あめもチョコレートもアイスクリームも、お菓子もなんにもないころなのです。食いしん坊だった僕には、甘い甘い弟のミルクは、よだれが出るほど飲みたいものでした。

母は、よく言いました。ミルクはヒロユキのご飯だから、ヒロユキはそれしか食べられないのだからと――。

でも、僕はかくれて、ヒロユキの大切なミルクを盗み飲みしてしまいました。それも、何回も……。

僕にはそれがどんなに悪いことか、よくわかっていたのです。でも、僕は飲んでしまったのです。僕は弟がかわいくてかわいくてしかたなかったのですが、……それなのに飲んでしまいました。

***配給 戦争中、不足した物資を政府が統制し、品物などを一定の割合で消費者に配ること**

〈新出漢字〉

一缶 かん

お菓子 か

盗み飲み ぬす



あまり空襲がひどくなってきたので、母は**疎開**しようと言いだしました。それである日、祖母と四歳の妹に留守番を頼んで、母が弟をおんぶして僕と三人で、しんせきのいる田舎へ出かけました。ところが、しんせきの人は、はるばる出かけてきた母と弟と僕を見るなり、うちには食べ物はないと言いました。僕たちは食べ物ももらいに行ったのではなかったのです。引越しの相談に行ったのに。母はそれを聞くなり、僕に帰ろうと言って、くると後ろを向いて帰りました。

その時の顔を。僕は今も忘れません。強い顔でした。でも悲しい悲しい顔でした。僕はあんなに美しい顔を見たことはありません。僕たち子供を必死に守ってくれる母の顔は、美しいです。僕はあのとこのことを思うと、いつも胸がいつぱいになります。

母は行ったこともない山の中の親切な人に頼んで、やっと疎開先が決まりました。とりあえず必要な荷物だけを持って、引越しすることになりました。それでも、荷物は馬車一台ありました。僕と母と祖母と妹、それに弟は、その馬車の荷物の上に座って、ゆらりゆらり揺れながら、朝、家を出て、南にむかって旅立ちました。福岡から南へ二十キロくらい行った、石釜という山あいの村です。

馬車の上で昼のおむすびを食べ、昼すぎには、きれいな溪流に沿って山路へかかりました。美しい青空、桃の花が咲く山村、橋からはあゆの泳ぐのが見られます。生まれて初めてみる、**桃源郷**でした。

これから始まる苦しい生活など、僕にはまだ分からない年ごろでした。ですから、毎日あのあゆをとっておかずには母が喜ぶだろうと思ったりして、これからの生活に胸をはずませました。

***疎開** 空襲などによる戦災から身を守るため、都市の住民が安全な地方へ引越すこと。

***桃源郷** 俗世間を離れたすばらしい別世界。

〈新出漢字〉

疎開

溪流

咲く



僕たちがお世話になる農家は、すぐ裏の山が頭の上におおいかぶさるような山すそにありました。その農家の庭に面した六畳間の一部屋を借りました。家の前の溪流には飛び石が対岸に続き、大雨の日はわたれませんが。下流の橋をわたって学校に行きました。

母は生まれて初めて田植えを手伝い、昼に出されるご飯を僕たちに残して、持って帰ってきました。

僕たち疎開者には配給もありませんので、母は自分の着物を持っていき、近所の農家の人たちをお願いして、米と交換してもらっていました。

疎開しても、ヒロユキのお乳には困りました。隣村にやぎを飼っている農家があると聞いては、母は着物をふろしきに包んで出かけました。

母の着物はなくなりました。

ヒロユキをおんぶして、僕はよく川へ遊びに出かけました。僕は弟が欲しかったので、よくかわいがりました。

ヒロユキは病気になりました。僕たちの村から三里くらい離れた町の病院に入院しました。僕は学校から帰ると、毎日、まきと食べ物で祖母に用意してもらい、母と弟のいる病院に、バスに乗って出かけました。

十日くらい入院したでしょうか。

ヒロユキは死にました。

暗い電気の下で、小さな小さな口に綿にふくませた水を飲ませた夜を、僕は忘れられません。泣きもせず、弟は静かに息をひきとりました。母と僕に見守られて、弟は死にました。病名はありません。栄養失調です……。

*三里 一里は、約三・九キロメートル

〈新出漢字〉

となり

交換

隣村

死んだ弟を母がおんぶして、僕は片手にやかん、そして片手にヒロユキの身の回りのものを入れた小さなふろしき包みを持って、家に帰りました。

白い乾いた一本道を、三人で山の村に向かって歩き続けました。バスがありました。母は弟が死んでいるのでほかの人に遠慮したのでしよう。三里の道を歩きました。

空は高く高く青く澄んでいました。ブウーンブウーンというB29の独特のエンジン音がして、青空にきらつきらつと機体が美しく輝いています。道にも畑にも、人影はありませんでした。歩いているのは三人だけです。

母はときどきヒロユキの顔に飛んでくるはえを手ではらいながら、言いました。

「ヒロユキは幸せだった。母と兄とお医者さん、看護婦さんにみとられて死んだのだから。空襲の爆撃で死ねば、みんなばらばらで死ぬから、もつとかわいそうだった。」

家では祖母と妹が、泣いて待っていました。部屋を貸してくださっていた農家のおじさんが、杉板を削って小さな小さな棺を作っていてくださいました。弟はその小さな小さな棺に、母と僕の手で寝かされました。小さな弟でしたが、棺が小さすぎて入りませんでした。

母が、大きくなっていたんだね、とヒロユキのひざを曲げて棺に入れました。そのとき、母は初めて泣きました。

父は、戦争に行つてすぐ生まれたヒロユキの顔を、とうとう見ないままでした。

弟が死んで九日後の八月六日に、ヒロシマに原子爆弾が落とされました。そして三日後にナガサキに。

そして、六日たった一九四五年八月十五日に戦争は終わりました。

僕はひもじかったことと、弟の死は一生忘れません。

〈新出漢字〉

澄む す

爆撃 ゲキ

杉板 すぎ

削る けず

棺 カン

文章を読んで答えましょう。

そのころは食べ物が多分になかったので、母は僕たちに食べさせて、自分^①はあまり食べませんでした。でも弟のヒロユキには、母のお乳が食べ物です。母は自分が食べないので、お乳がでなくなりました。ヒロユキは食べるものがありません。おもゆといっておかゆのもつと薄いのを食べさせたり、やぎのミルクを遠くまで買いに行つて飲ませたりしました。

でも、ときどき配給がありました。ミルクが一缶、それがヒロユキの大切な大切な食べ物でした……。

みんなにはとうていわからないでしょうが、そのころ、甘いものはぜんぜんなかったのです。あめもチョコレートもアイスクリームも、お菓子もなんにもないころなのです。食いしん坊だった僕には、甘い甘い弟のミルクは、よだれが出るほど飲みたいものでした。

母は、よく言いました。②「ミルクはヒロユキのご飯だから、ヒロユキはそれしか食べられないのだからと」。

でも、僕はかくれて、ヒロユキの大切なミルクを盗み飲みしてしまいました。それも、何回も……。

僕にはそれがどんなに悪いことか、よくわかっていたのです。でも、僕は飲んでしまったのです。僕は弟がかわいくてかわいくてしかたなかったのですが、……それなのに飲んでしまいました。

(1) ①母は自分が食べないので、お乳がでなくなりました。②について答えましょう。

A. 母はなぜ食べなかったのですか。

B. 母のお乳の代わりに、ヒロユキの最も貴重な食べ物になったのは何ですか。

(2) ②僕はかくれて、ヒロユキの大切なミルクを盗み飲みしてしまいました。とありますが、このときの「僕」の気持ちを考えて書きましよう。

文章を読んで答えましょう。

そのころは食べ物が多分になかったのも、母は僕たちに食べさせて、自分にはあまり食べませんでした。でも弟のヒロユキには、母のお乳が食べ物^①です。母は自分が食べないので、お乳がでなくなりました。ヒロユキは食べるものがありません。おもゆといっておかゆのもつと薄いのを食べさせたり、やぎのミルクを遠くまで買いに行つて飲ませたりしました。

でも、ときどき配給がありました。ミルクが一缶、それがヒロユキの大切な大切な食べ物でした……。

みんなにはとうていわからないでしょうが、そのころ、甘いものはぜんぜんなかったのです。あめもチョコレートもアイスクリームも、お菓子もなんにもないころなのです。食いしん坊だった僕には、甘い甘い弟のミルクは、よだれが出るほど飲みたいものでした。

母は、よく言いました。ミルクはヒロユキのご飯だから、ヒロユキはそれしか食べられないのだからと――。

でも、僕はかくれて、ヒロユキの大切なミルクを盗み飲みしてしまいました。それも、何回も……。

僕にはそれがどんなに悪いことか、よくわかっていたのです。でも、僕は飲んでしまったのです。僕は弟がかわいくてかわいくてしかたなかったのですが、……それなのに飲んでしまいました。

(1) ①母は自分が食べないので、お乳がでなくなりました。について答えましょう。

A. 母はなぜ食べなかったのですか。

僕たちに食べ物を食べさせるため。

B. 母のお乳の代わりに、ヒロユキの最も貴重な食べ物になったのは何ですか。

配給のミルク

(2) ②僕はかくれて、ヒロユキの大切なミルクを盗み飲みしてしまいました。とありますが、このときの「僕」の気持ちを考えて書きましよう。

ミルクは、ヒロユキにとって大切だということにはわかっていたが、「僕」もひもじくて、どうしようもなかった。

あまり空襲がひどくなってきたので、母は疎開しようと言いだしました。それである日、祖母と四歳の妹に留守番を頼んで、母が弟をおんぶして僕と三人で、^①しんせきのいる田舎へ出かけました。ところが、しんせきの人は、はるばる出かけてきた母と弟と僕を見るなり、うちには食べ物はないと言いました。僕たちは食べ物をもらいに行ったのではなかったのです。引越しの相談に行ったのに。母はそれを聞くなり、僕に帰ろうと言って、くると後ろを向いて帰りました。

^②その時の顔を、僕は今も忘れません。強い顔でした。でも悲しい悲しい顔でした。僕はあんなに美しい顔を見たことはありません。僕たち子供を必死に守ってくれる母の顔は、美しいです。僕はあのとこのことを思うと、いつも胸がいっぱいになります。

母は行ったこともない山の中の親切な人に頼んで、やっと疎開先が決まりました。とりあえず必要な荷物だけを持って、引越しすることにまりました。それでも、荷物は馬車一台ありました。僕と母と祖母と妹、それに弟は、その馬車の荷物の上に座って、ゆらりゆらり揺れながら、朝、家を出て、南にむかって旅立ちました。福岡から南へ二十キロくらい行った、石釜^{いしがま}という山あいの村です。

馬車の上で昼のおむすびを食べ、昼すぎには、きれいな溪流に沿って山路へかかりました。美しい青空、桃の花が咲く山村、橋からはあゆの泳ぐのが見られます。生まれて初めてみる、桃源郷でした。

(1) ①しんせきのいる田舎へ出かけました。について答えましょう。

A. その目的は何ですか。

B. しんせきの人は、「僕」たちが来たのは何のためだと思いませんか。

(2) ②その時の顔について答えましょう。

A. 「僕」は、その時の顔をどのように表現していますか。三つ書きましょう。

B. 「僕」は母の顔から何を感じたと考えられますか。

(3) ③疎開先は、「僕」の目にはどのようなように映りましたか。

あまり空襲がひどくなってきたので、母は疎開しようと言いだしました。それである日、祖母と四歳の妹に留守番を頼んで、母が弟をおんぶして僕と三人で、①しんせきのいる田舎へ出かけました。ところが、しんせきの人は、はるばる出かけてきた母と弟と僕を見るなり、うちには食べ物はないと言いました。僕たちは食べ物をもらいに行ったのではなかったのです。引越しの相談に行ったのに。母はそれを聞くなり、僕に帰ろうと言って、くると後ろを向いて帰りました。

②その時の顔を、僕は今も忘れません。強い顔でした。でも悲しい悲しい顔でした。僕はあんなに美しい顔を見たことはありません。僕たち子供を必死に守ってくれる母の顔は、美しいです。僕はあのとこのことを思うと、いつも胸がいっぱいになります。

母は行ったこともない山の中の親切な人に頼んで、やっと疎開先が決まりました。とりあえず必要な荷物だけを持って、引越しすることにまりました。それでも、荷物は馬車一台ありました。僕と母と祖母と妹、それに弟は、その馬車の荷物の上に座って、ゆらりゆらり揺れながら、朝、家を出て、南にむかって旅立ちました。福岡から南へ二十キロくらい行った、石釜いしがまという山あいの村です。

馬車の上で昼のおむすびを食べ、昼すぎには、きれいな溪流に沿って山路へかかりました。美しい青空、桃の花が咲く山村、橋からはあゆの泳ぐのが見られます。生まれて初めてみる、桃源郷でした。

(1) ①しんせきのいる田舎へ出かけました。について答えましょう。

A. その目的は何ですか。

引越しの相談

B. しんせきの人は、「僕」たちが来たのは何のためだと思いましたか。
食べ物をもらいに来たと思った。

(2) ②その時の顔について答えましょう。

A. 「僕」は、その時の顔をどのように表現していますか。三つ書きましょう。

強い顔

悲しい顔

美しい顔

B. 「僕」は母の顔から何を感じたと考えられますか。

自分が家族を守ろうという強い決意。

(3) ③疎開先は、「僕」の目にはどのようなように映りましたか。

僕たち疎開者には配給もありませんので、母は自分の着物を持っていき、近所の農家の人たちにお願ひして、米と交換してもらっていました。疎開しても、ヒロユキのお乳には困りました。隣村にやぎを飼っている農家があると聞いては、母は着物をふろしきに包んで出かけました。

① 母の着物はなくなりました。
ヒロユキをおんぶして、僕はよく川へ遊びに出かけました。僕は弟が欲しかったので、よくかわいがりました。

② ヒロユキは病気になりました。僕たちの村から三里くらい離れた町の病院に入院しました。僕は学校から帰ると、毎日、まきと食べ物を祖母に用意してもらい、母と弟のいる病院に、バスに乗って出かけました。

③ 十日くらい入院したでしょうか。
ヒロユキは死にました。

暗い電気の下で、小さな小さな口に綿にふくませた水を飲ませた夜を、僕は忘れられません。泣きもせず、弟は静かに息をひきとりました。母と僕に見守られて、弟は死にました。病名はありません。栄養失調です……。

死んだ弟を母がおんぶして、僕は片手にやかん、そして片手にヒロユキの身の回りのものを入れた小さなふろしき包みを持って、家に帰りました。

(1) ① 母の着物はなくなりました。とは、ヒロユキにとって何を意味しますか。

(2) ② ヒロユキは病気になりました。とありますが、ヒロユキは具体的にどういう状態になったのですか。文章中から四字で書き出しましょう。

(3) ③ ヒロユキは死にました。という表現は何を表していますか。

ア 事実だけを述べることで、当時の感情を思い出せないということを表している。

イ 冷静に述べることで、弟の死は戦争中だったのでしかたなかったというあきらめの気持ちを表してる。

ウ 完結の述べることで、反対に、その悲しみが言いようもなく深いということを表している。

エ 過去形で述べることで、子供時代のなつかしい思い出ということを表している。

僕たち疎開者には配給もありませんので、母は自分の着物を持っていき、近所の農家の人たちにお願ひして、米と交換してもらっていました。疎開しても、ヒロユキのお乳には困りました。隣村にやぎを飼っている農家があると聞いては、母は着物をふろしきに包んで出かけました。

① 母の着物はなくなりました。
ヒロユキをおんぶして、僕はよく川へ遊びに出かけました。僕は弟が欲しかったので、よくかわいがりました。

② ヒロユキは病気になりました。僕たちの村から三里くらい離れた町の病院に入院しました。僕は学校から帰ると、毎日、まきと食べ物を祖母に用意してもらい、母と弟のいる病院に、バスに乗って出かけました。

③ 十日くらい入院したでしょうか。
ヒロユキは死にました。

暗い電気の下で、小さな小さな口に綿にふくませた水を飲ませた夜を、僕は忘れられません。泣きもせず、弟は静かに息をひき取りました。母と僕に見守られて、弟は死にました。病名はありません。栄養失調です……。

死んだ弟を母がおんぶして、僕は片手にやかん、そして片手にヒロユキの身の回りのものを入れた小さなふろしき包みを持って、家に帰りました。

(1) ①母の着物はなくなりました。とは、ヒロユキにとって何を意味しますか。

ヒロユキの飲むお乳がなくなった。

(2) ②ヒロユキは病気になりました。とありますが、ヒロユキは具体的にどのような状態になったのですか。文章中から四字で書き出しましょう。

栄養失調

(3) ③ヒロユキは死にました。という表現は何を表していますか。

ア 事実だけを述べることで、当時の感情を思い出せないということを表している。

イ 冷静に述べることで、弟の死は戦争中だったのでしかたなかったというあきらめの気持ちを表している。

ウ 完結の述べることで、反対に、その悲しみが言いようもなく深いということを表している。

エ 過去形で述べることで、子供時代のなつかしい思い出ということを表している。

白い乾いた一本道を①三人で山の村に向かって歩き続けました。バスがありました。母は弟が死んでいるのでほかの人に遠慮したのです。う、三里の道を歩きました。

空は高く高く青く澄んでいました。ブーンブーンというB29の独特のエンジン音がして、^②青空にきらつきらつと機体が美しく輝いています。道にも畑にも、人影はありませんでした。歩いているのは三人だけです。

母はときどきヒロユキの顔に飛んでくるはえを手ではらいながら、言いました。

③「ヒロユキは幸せだった。母と兄とお医者さん、看護婦さんにみとられて死んだのだから。空襲の爆撃で死ねば、みんなばらばらで死ぬから、もつとかわいそうだった。」

家では祖母と妹が、泣いて待っていました。部屋を貸してくださいっていた農家のおじさんが、杉板を削って小さな小さな棺を作ってくれました。弟はその小さな小さな棺に、母と僕の手で寝かされました。小さな弟でしたが、棺が小さすぎて入りませんでした。

母が、大きくなっていったんだね、とヒロユキのひざを曲げて棺に入れました。④そのとき、母は初めて泣きました。

(1) ①三人とは、だれのことですか。

(2) ②青空にきらつきらつと機体が美しく輝いています。という表現から、「僕」のどんな様子が読み取れますか。

ア B29の姿におびえている様子。

イ 空に行く飛行機の姿にあこがれる様子。

ウ 爆撃機を美しいと感じるほどうつろな様子。

エ 機体の美しさに見とれるほどおだやかな様子。

(3) ③ 「ヒロユキは幸せだった」について答えましょう。

① それはなぜだと母は言いましたか。

② このときの母の気持ちを考えて書きましょう。

(4) ④ そのとき、母は初めて泣きました。とありますが、この時の母の気持ちを考えましょう。

白い乾いた一本道を①三人で山の村に向かって歩き続けました。バスがありました。母は弟が死んでいるのでほかの人に遠慮したのです。う、三里の道を歩きました。

空は高く高く青く澄んでいました。ブーンブーンというB29の独特のエンジン音がして、^②青空にきらつきらつと機体が美しく輝いています。道にも畑にも、人影はありませんでした。歩いているのは三人だけです。

母はときどきヒロユキの顔に飛んでくるはえを手ではらいながら、言いました。

③「ヒロユキは幸せだった。母と兄とお医者さん、看護婦さんにみとられて死んだのだから。空襲の爆撃で死ねば、みんなばらばらで死ぬから、もつとかわいそうだった。」

家では祖母と妹が、泣いて待っていました。部屋を貸してくださいって農家のおじさんが、杉板を削って小さな小さな棺を作ってくれました。弟はその小さな小さな棺に、母と僕の手で寝かされました。小さな弟でしたが、棺が小さすぎて入りませんでした。

母が、大きくなっていったんだね、とヒロユキのひざを曲げて棺に入れました。④そのとき、母は初めて泣きました。

(1) ①三人とは、だれのことですか。

僕 母 死んだヒロユキ

(2) ②青空にきらつきらつと機体が美しく輝いています。という表現から、「僕」のどんな様子が読み取れますか。

ア B29の姿におびえている様子。

イ 空に行く飛行機の姿にあこがれる様子。

ウ 爆撃機を美しいと感じるほどうつろな様子。

エ 機体の美しさに見とれるほどおだやかな様子。

(3) ③ 「ヒロユキは幸せだった」について答えましょう。

① それはなぜだと母は言いましたか。

母と兄お医者さん、看護婦さんにみとられて死んだから。

② このときの母の気持ちを考えて書きましょう。

そうとでも思わなければ、悲しくてやりきれない。

(4) ④ そのとき、母は初めて泣きました。とありますが、この時の母の気持ちを考えましょう。

ヒロユキが成長していたことを知り、かわいそうに思う気持ち。

宿題

次回の授業までにやる勉強です。

1. 漢字

今日の漢字テストでできなかった漢字の練習をしましょう。

文章で書けるように、新出漢字以外の漢字も復習のため練習しましょう。

2. 音読 「大人になれなかった弟たちに・・・」を 読みましょう。

3. この作品の主題を考えましょう。

- ・ 戦争のために死んでいった子どもたちへの気持ち
- ・ 戦争に対する気持ち
- ・ この作品を通じて、何を願っているのか。



お知らせ

1. 質問があったら、メールをください。すぐお返事します。
 2. 自分が書いた文章を見てもらいたいときはメールで送って
くれば、直して送り返します。
- ❖ メールアドレスは、 Akiko@JPNCClass.com です。
 - ❖ このビデオのスライドはWebページ <http://JPNCClass.com> から
ダウンロードや印刷ができます。



JPN Class

Online school - 日本語で学ぼう

中学

国語
一年

年間学習表



身につけたい力

7月	6月	5月	4月	
		発見したことを伝えよう スピーチの構成を考え、 メモをもとにスピーチ をしよう。	野原はうたう 好きな詩を、登場する 生き物の気持ちになっ て朗読しよう。	話す／聞く 一年間の学習を通して 先生の話を聞き、学習 を進めよう。
文章の推敲と原稿用紙の 使い方 推敲のポイントと原稿 用紙のうえでの推敲の 仕方を知ろう。原稿用 紙の決まりを確かめよ う。	情報を文章にまとめよう 自分の身の回りのこと について、情報を集め、 文章にまとめよう。	発見したことを伝えよう スピーチの構成を考え、 スピーチメモを書こう。	野原はうたう 自分の好きな生き物を 選んで、詩を作ろう。	書く 新聞記事 記事の要約をし、記事 に対する自分の意見 ^{コメント} や感想を書こう。
光と風からもらった贈り 物 筆者が「高原」のどん なところに、言葉の豊 かさを感じているかを とらえよう。	クジラたちの声 クジラの情報伝達に関 する二つの問いをおさ え、音の役割、海中で の情報伝達に音が最適 である理由をつかもう。	ちよつと立ち止まって 各図の説明を通して、 ものの見方について、 筆者が述べていること をとらえよう。	野原はうたう 作者が生き物の姿にど んな思いを感じている かを、読み取ろう。 にじの見える橋 少年の行動や心情に着 目し、にじを見る前と あとの気持ちの変化を とらえよう。	読む 新聞記事 新聞記事を読もう。
混同しやすい漢字 形が似ていたり音が同 じであったりする漢字 を知り、間違えて使わ ないように気をつけよ う。	言葉の単位 文節や単語に区切る方 法を知ろう。	漢字の組み立てと部首 漢字の部分のよび名と 表すものを覚えよう。	話し言葉と書き言葉 話し言葉と書き言葉の 違いをおさえよう。	言葉

	3月	2月	1月	
				話す／聞く
		心に残る思いで読み手の興味を引くように、発表しよう。		
	言葉を調べよう 言葉についての課題を調べ、資料にまとめる。	心に残る思いで今までの経験で、自分が成長したと思えることや、変わったと思うことを思い出して、文章にまとめよう。	江戸からのメッセージ 江戸の知恵を今の時代に生かせることは何か考え、それをまとめよう。	書く
	胸の底の人と言葉たち 人や言葉との出会いを読み取り、筆者がわたしたちに願うことは何かを考えよう。	少年の日の思い出 登場人物の心情の移り変わりをとらえ、生き方を考えよう。	江戸からのメッセージ リサイクルを徹底した江戸っ子の生活と、そこから導かれた筆者の主張をつかもう。	読む
〈一年生の漢字〉 一年生で習った漢字の復習をしよう。		漢字の成り立ち 漢字の成り立ちをおさえ、成り立ちで意味や読みを類推できることを知ろう。	辞典を活用しよう 国語辞典、漢和辞典の使い方を知り、実際に様々な言葉を調べよう。	言葉
		指示する語句と接続する語句 指示する語句と接続する語句の種類や用法を理解しよう。		